Ⅳ　投資財政計画(収支計画)

１　現在の経営状況

減価償却費の減少により、2019年度決算で初めて黒字となって以降、２年連続黒字を計上しており、累積欠損金(137億円)はあるが、資金状況も含め、経営状況に特段の問題はない。

また、経営状況の参考となる各種経営指標も以下のとおり、良好又は良い傾向にある。

### (１)　直近4年間の収支状況

（千円）



(百万円)

(百万円)

(２)直近４年間の各種経営指標

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 2017  年度 | 2018  年度 | 2019  年度 | 2020  年度 |
| 経常収支比率 | 88.6% | 99.7% | 120.1% | 129.9％ |
| 経費回収率 | 72.7% | 74.2% | 100.0％ | 115.9％ |
| 他会計補助金比率 | 5.2% | 17.3% | 11.4％ | 8.3％ |
| 自己資本比率 | 78.4% | 87.0％ | 87.6％ | 88.5％ |
| 有形固定資産減価償却率 | 72.0% | 72.2％ | 73.2％ | 73.6％ |
| 企業債残高対料金収入比率 | 83.4％ | 97.6％ | 76.9％ | 75.2％ |

経営指標の説明及び評価

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 指標名 | 算定式 | 評価基準 | 評価 |
| 経常収支比率 | 経常収益/経常費用 | 経常費用を経常収益でどの程度賄えているかを示す数値で、100％以上が望ましい | 2019年度以降は100％を超えており、良好と考えられる |
| 経費回収率 | 納付金等収益/  経常費用 | 納付金等収益で必要な費用を回収できているかを示す数値で高い方が望ましい | 2019年度以降は100％を超えており、良好と考えられる |
| 他会計補助金  比率 | 他会計補助金/  経常費用 | 必要な経費が一般会計からの繰入金等によってどの程度賄えているかを示す数値で、低い方が望ましい | 10％前後となっており、他会計補助金への依存度が低く、良好と考えらえる |
| 自己資本比率 | (自己資本金+剰余金+繰延収益)/負債・資本合計 | 負債及び純資産の合計額にどの程度純資産が占めているかを示す数値で、高い方が望ましい | 70～80％台で推移しており、良好と考えられる |
| 有形固定資産  減価償却率 | 有形固定資産減価償却累計額/有形固定資産帳簿価格 | 有形固定資産の老朽化の程度を示すもので、高いほど老朽化が進んでいるとされている | 70％台と高い数値となっており、施設や設備の老朽化が進んでいる |
| 企業債残高対  料金収入比率 | (企業債残高ー一般会計負担金)/納付金等収入 | 納付金等収益に対する企業債残高(一般会計負担分を除く)の割合を示す数値で、低いほど望ましい | 年々減少しており、良い傾向にあると考えられる |

２　今後５年間の投資財政計画（収支計画）

### 

今後５年間の投資財政計画(収支計画) については、以下のとおりとする。

計画期間中は、市場の建替えによる再整備の検討などに係る費用が発生するが、黒字が継続するよう、計画を策定する。

なお、収支計画については、毎年度決算後に更新するものとし、建替えによる再整備の検討状況等に応じて、必要な費用等を反映する。

（百万円）



※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計等とが一致しない場合がある

３　投資財政計画(収支計画)の説明

投資・財政計画(収支計画)は、以下の考え方に基づき、作成している。



